

コムズフェスティバル映画祭
シネマ&トーク

報告



2/17 (土)

10:00~12:00 開催

【トークゲスト】

フリーアナウンサー 大和田 新 さん

【演題】

「伝えることの大切さ、伝わることの素晴らしさ」

プロフィール

1955年（昭和30年）3月生まれ。63歳。神奈川県横須賀市出身。

昭和52年中央大学法学部政治学科卒。同年ラジオ福島にアナウンサーとして入社。

3年前、38年勤めたラジオ福島を定年退職。現在は個人事務所「株 O.A 企画」を立ち上げ、フリーアナウンサーとしてラジオ、講演会などで活躍中。

2011年3月11日に発生した「東日本・津波・原発事故大震災」では、12時間マイクに向かい県民に情報を伝え励まし続けた。

震災から5年3カ月の記録を「大和田ノート」として出版。

大和田ノートは全国の地方新聞社が加盟する「ふるさと自費出版大賞」で優秀賞を受賞した。

【講演内容】

1. 福島の現状と無念制作の経緯の説明
2. 映画上映:「無念」
3. 無念から伝えたいこと

福島県の現状

東日本大震災での「関連死」が最も多いのは福島県

福島県の市町村が関連死と認定した死者数は、2211人に上り、昨年2月末時点より82人増えています。(H31年2月20日現在)

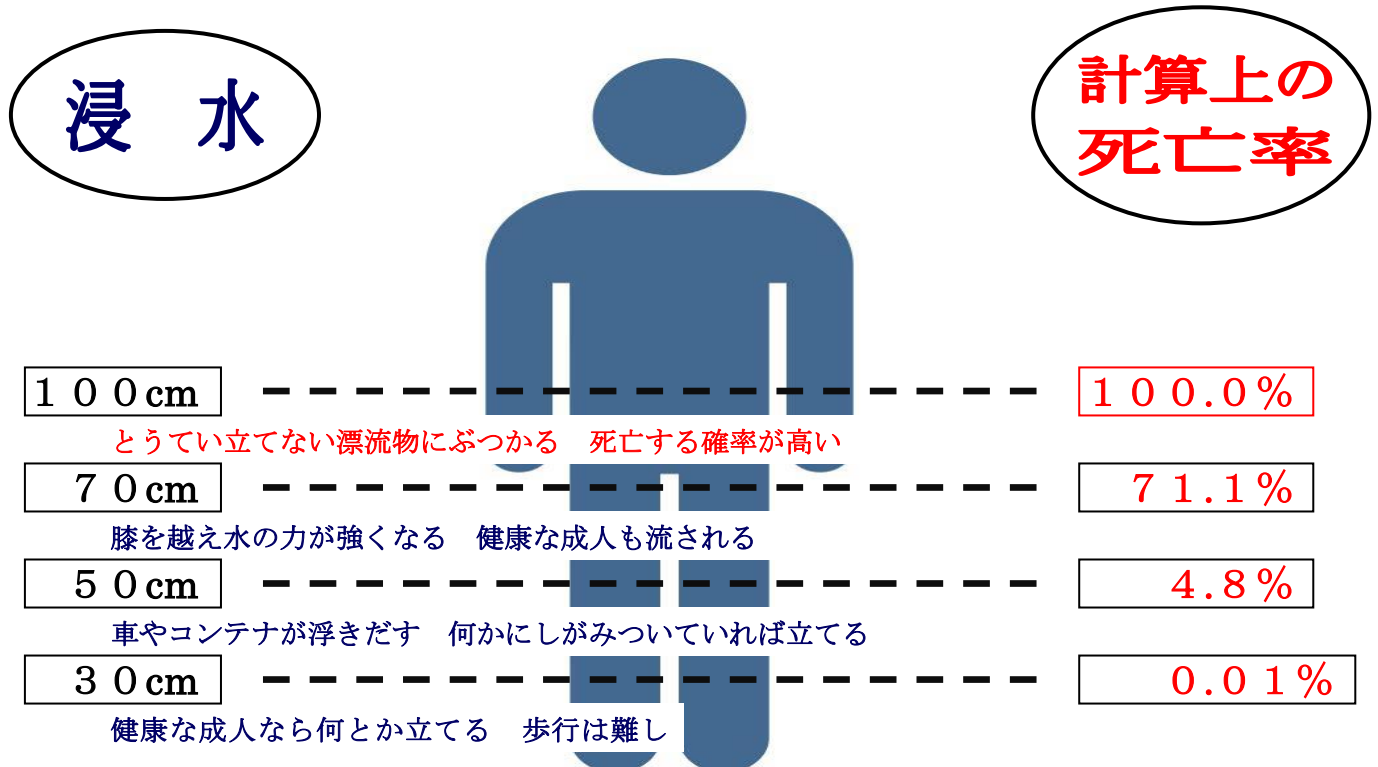
直接死の1605人を606人上回り、県内の直接死と関連死、死亡届が出された人を含めた死者数4040人の約55%を占めているのが現状です。

その中でも、南相馬市が507人で最も多く、浪江町が414人、富岡町が410人、双葉町が147人と続いており、原発事故に伴う避難区域に設定された12市町村が計2003人と大半を占めています。

※「関連死」・・・震災後の避難生活で体調が悪化して亡くなること（自殺も含む）

※「直接死」・・・地震や津波等の被害で亡くなること

「津波」による浸水と死亡率

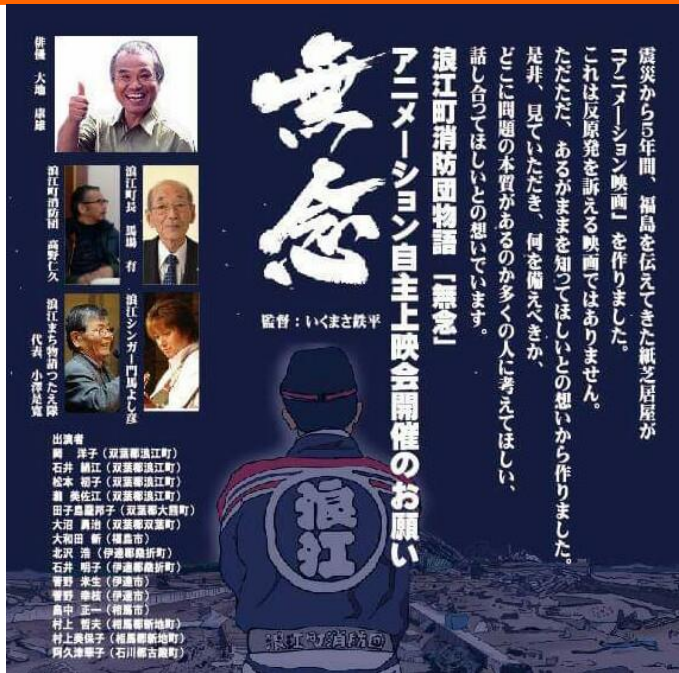


皆さんも、上記の図を見て驚かれた方も多いと思います。

100cmで、計算上、生き残れないということです。

上映作品：無念

浪江まち物語つたえ隊/まち物語制作委員会 上映：54分



【ストーリー】

舞台は、福島県浪江町請戸（うけど）地区。
2011年3月11日、突然奪われてしまった
漁港の平和な日常。地震や原発を恨んでも、
救えなかった命は戻ってこない。
ただただ、無念を語る消防団員たち。
「浪江まち物語つたえ隊」を中心に、あの日
の出来事と被災者たちの心の内を、被災者
自身が語る、涙のアニメーション作品。

【浪江町について】

福島第一原発から10km圏内に位置し、いまだ帰還が許されぬ区域もあります。

○東日本大震災当時の人口は、約21,500人。現在の住民登録数は約18,000人。

○その他の町民は、現在も町外での避難生活を続けています。

避難先は福島県内が約7割、県外が約3割（44都道府県）で、福島県内の仮設・借上げ住宅には、現在も約1,700人が居住。

○避難指示解除前に実施した住民の帰還意向調査では、

「帰還したいと考えている」13.5% 「まだ判断がつかない」31.6%

「帰還しないと決めている」49.5% （平成29年12月調査）。

※浪江町役場 HP 参照

最後に

皆さんは、「つなみ てんでんこ」という言葉は、ご存知ですか？

「自分の命は自分で守れ」

「津波が来たら、取る物も取り敢えず、肉親にも構わずに、各自てんでんばらばらに一人で高台へと逃げろ」

という意味であり、東北の人は皆知っています。

今日のお話を機会に、福島のことについて知ってもらいたいこと、

また、命の尊さについて改めて考えていただければ幸いです。



《参加者からの声》

[30代女性]

- ・書ききれない程、色々な想いがわいてきた。みんな、災害に対してさまざまな知識や認識があると思うが、間違った認識や時間と共に危機意識の低下があると思う。周りの大切な人にこの講演を聞いて欲しいと思ったので、ぜひ今回の講演をより多くの場所ですて頂きたい。
- ・愛媛も南海トラフが心配されるので、福島現状・実状をリアルに伝えて頂き、とても勉強になった。

[40代女性]

- ・当事者の声は胸に響いた。
- ・映画「無念」は、涙なしでは観られなく、非常にいい映画だった。大和田さんのお話、より多くの方に聞いてもらいたい。

[50代女性]

- ・伊方原発を抱える、こちらも他人事ではない。どうすれば安全と平和を守られるか考え、行動していきたい。
- ・東日本大震災の悲惨さ、むごさ、色々なことが痛切に伝わってきた。生命の大切さを改めて考えたい。
- ・知らないことばかりで驚いた。大変参考になった。周りの人にも話したいと思う。
- ・年月が経つと、風化していくのが現状である。8年経とうとしている今、忘れないよう心に記して生きたい。
- ・南海トラフがあるかもしれない愛媛にとって参考になった。
- ・今日参加できなかった家族や周りの人に伝えたい。
- ・知らない事が多く、後世に伝えなければならぬと強く思った。
- ・2時間、始めから終わりまで心が揺さぶられ続けた。救った人、救われた人、全ても人の悲しみが伝わって全身が震えた。

[50代男性]

- ・原発事故の大変さを改めて感じた。「ひとつ」はとても考えさせられた。もっとPRして、多くの人たちに見てもらいたいと思う。

[60代女性]

- ・風化しつつある震災を、次の備えとして再認識するためにも多くの日本人に知って欲しい。
- ・無念なことがないように祈るばかり。
- ・メディアからの情報しか知らなかった。貴重なお話感動した。
- ・色々な想いがあっても、それを叶えることができなかつた無念さを強く実感した。こうした想いを伝えていく大切さ、とても痛感した。
- ・是非を問うわけでない。考えて考え続けることを教えて頂いた。
- ・7年前の事をもう一度思い出し涙した。
- ・忘れかけていた記憶が蘇ってきて、考えさせられた。
- ・忘れてはいけない震災。改めて亡くなられた人の無念を自分の事とし、これから来るであろう南海トラフ大震災に備えたいと思う。
- ・さまざまな無念が含まれ、東電の無念も描かれていたことがとても印象に残った。
- ・今日は、福島県の事を少しでも知る機会ができた。これからは、より一層関心をもっていこうと思う。
- ・2011年3月末から主人が仕事で福島原発に関わることになり、その様子を聞いていた。とても他人事に思わなかつたので今回の講演がきけてとてもよかった。

- ・福島の現状を知ることができた。

[60代男性]

- ・貴重な体験に基づいて語られ、内容がよかった。

[70代女性]

- ・震災の悲惨さを話では聞いていたが、今回の講演を聞いてよくわかった。
- ・津波、地震の恐怖を心に刻んだ。災害に対してもう少し準備、対策を考えなければならないと思った。
- ・今まで震災があっても危機管理を考えてもいなかった。若い人に見てもらいたいと思った。
- ・人のために尽くすことの素晴らしさ、感動した。
- ・大変感動した。やはり原発はこわい。
- ・人は何が起こるかわからないが、心の強さと優しさを教えられた。
- ・現実を受け止める事で、今出来ることを考える機会となった。
- ・3月11日、家に帰るとテレビで流れている画面に恐怖を覚えた。
その背景にこのようなドラマがあったことを知った。
- ・福島は遠く離れていることもあり、気にしていない自分を恥ずかしかった。
今一度考え、知ることも大切だと感じている。
- ・災害に大丈夫はない。日頃から関心を持ち備えていきたいと思う。

[70代男性]

- ・実際にあった事に基づいて制作されているので感動した。

[年齢無回答 女性]

- ・伝えることの大切さ・学びを重ね、経験や知った事を伝え活かしていかなければと思った。